

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : 最後のページ参照

日本教育工学会ホームページ <http://www.jset.gr.jp/>

ISSN 1340-9913

## 第24回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ（第二報）

第24回通常総会とシンポジウムを以下のように開催いたします。あらかじめご予定下さい。

### 記

- 日時 2008年6月21日（土）  
10:00-12:00 研究報告およびディスカッション（詳細は、本ニューズレター3ページをご覧ください）  
12:00-13:00 総会  
総会終了後 理事・評議員会  
14:00-16:00 シンポジウム（詳細は、本ニューズレター3ページをご覧ください）
- 会場 東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館デジタル多目的ホール  
東京都目黒区大岡山2-12-1（東急目黒線・大井町線 大岡山下車 徒歩1分）
- 総会の議事
  - 第1号議案 2007年度（2007.4.1-2008.3.31）事業報告および収支決算承認の件
  - 第2号議案 2008年度（2008.4.1-2009.3.31）事業計画および収支予算案承認の件

### 本号目次

第24回通常総会とシンポジウムのお知らせ(第二報)-1	研究会の開催案内／発表募集／報告-----	13	
雑感-----	2	冬の合宿研究会報告-----	17
シンポジウムのお知らせ-----	3	産学協同セミナー報告-----	18
第24回全国大会のお知らせ(第二報)-----	4	理事会議事録-----	19
国際会議等報告-----	12	新入会員／学会日誌等-----	20

## 雑 感

副会長 永野和男（聖心女子大学）

この3月で、お世話役をしていた科研「学力向上と学校におけるICT活用の効果に関する総合的・実証的研究」が終了した。学会の3つの重点研究領域の一部「ICTの教育利用と学力に及ぼす効果などに関する研究」の一環である。多方面な領域から有能な学会のメンバーが参加したプロジェクトであったので、それなりの新しい方向性が見えてきたと考えている。もともと2年前の時点では、ICT活用が教育効果を挙げることを実証的に示すことが課題であった。しかし、研究的にみて、ICT活用＝学力向上の図式が見えたとは私自身は感じていない。たとえば、学力といっても、計算力や読み書きなどの基礎的な学力、思考力や判断力、問題解決力など総合的な学力と、その幅は広い。そのいずれを学力向上のターゲットにするのか、またICTをどのような場面でどのように使うのかを規定しなければ成果は示せない。幸いなことに、グローバルな傾向としての成果は、教師を対象とした清水らの調査、大規模な学力試験データを分析した木原らの調査によって明らかになった。しかし、その木原の調査においても、結論は「2つの大規模調査の結果を総括すると、ICT環境の整備とICT活用、ICT活用と学力の間に、ある程度の連関を確認しうる」と書かざるをえない。それは、教育現場をフィールドにした研究では、学力の測定に関する未確定さ、ICT活用に関する未確定さのなかで研究を進めなければならないからである。

一般に調査や実験では、データを正確に大量に収集し統計的に処理すると、そのデータの性質が見えてくる。やや複雑な要因が潜む構造であっても因子分析などを利用するといくつかの（直交の）軸がみえてくる。しかし、学力の判定に使われるテストデータの値は、それ自身が異なる小問題の配点を足し集めたものであり、また平均値を中心としてうまく分散するように調整しているデータである場合が多い。5段階評価などは、もともと順序尺度データでありそのままでは統計分析には向かない。統計処理して有意差を示すアプローチは、手続き的には説得力があるようだが、本質的な部分を多様な要素の中に埋もれさせてしまう危険ももっている。

ICT活用についてはどうだろう。そもそもコンピュータは人間にとって「機械」としての側面と「道具」としての側面をもつ。機械を強調すれば、コンピュータは人間（教師）の変わりに教授活動を代行することになり、それが効果をあげないとすれば、教授法の問題になる。昔から、記憶や知識理解、訓練的な技能の習得にICTを効果的に機能させることは実証されている。しかし、わが国の教育現場でのコンピュータは、教師の代行をする機械ではなく、a)教師が授業を効果的に行うための支援ツール、b)学習者が学習を深めるための道具、c)情報や情報機器をうまく活用し問題解決できるようにするための道具、のように道具として受け入れられた。a)とb)c)では、コンピュータの活用者と活用目的が異なる。また、b)とc)とでは、子どもが身につけるべき能力が異なる。特にc)の育成は、まさにPISAが指摘している新しい時代の学力に対応しており非常に重要であると考えらる。

では、ICT活用をよい方向に進めるには、どうすればいいのか。ひとつは、機械として、洗練された教材を開発・普及させることを、もう一度意識する必要がある。また、道具としては、洗練されたインターフェイスを開発するとともに、道具を活用できる教師の力量を高める方法を開発することが、これからますます重要になろう。道具としての成果は、当然それを使用するひとりひとりの教師の力量に大きく関連するからである。

## 6月シンポジウムの開催について

日本教育工学会2008年度の6月シンポジウムを、以下のように、学会総会の前後に行います。午前中は主として学会員を対象とし、「科研費による研究プロジェクト『学力向上と学校におけるICT活用の効果に関する総合的・実証的研究』の研究成果を中心として」と題した研究報告およびディスカッションを、また午後は公開シンポジウムとして、「我が国の高等教育の行方と教育工学～経営，経済，社会的視点を活かして～」と題し、開催致します。

日時：2008年6月21日（土）10:00－16:00

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館 デジタル多目的ホール  
東京都目黒区大岡山2-12-1（東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩1分）

URL <http://www.titech.ac.jp/>

参加：参加希望者は、当日受付にて直接お申し込み下さい。

（参加費として資料代500円をいただきます。開始30分前より受付を行っております。）

**午前の部：10:00－12:00 研究報告およびディスカッション**（主として学会員向け。ただし非会員の方の参加も可能）

### ■テーマ

「科研費による研究プロジェクト『学力向上と学校におけるICT活用の効果に関する総合的・実証的研究』の研究成果を中心として」

### ■コーディネータ・司会（以下敬称略）

永野和男（聖心女子大学）

### ■登壇者

1.大規模調査から読み取れる傾向と問題

木原俊行（大阪教育大学）

2.長期的・日常的なICT活用授業の傾向分析と学力向上への影響

豊田充崇（和歌山大学）

3.教師の力量とICT活用およびその分析結果

堀田龍也（メディア教育開発センター）

指定討論者

中山 実（東京工業大学）

**午後の部：14:00－16:00 シンポジウム**（会員及び一般参加者向け）

### ■テーマ

「我が国の高等教育の行方と教育工学～経営，経済，社会的視点を活かして～」

### ■ねらい

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代であると言われております。高等教育は、個人の人格の形成の上でも、社会・経済・文化の発展・振興や国際競争力の確保等の国家戦略の上でも、極めて重要なものです（中央教育審議会2005）。

しかし現状では、FD（ファカルティ・ディベロプメント）の義務化がなされ、各高等教育機関で授業改善や教員の教育力向上への取り組みがなされているにも関わらず、高等教育を社会のニーズへ十分にこたえるものへと変革できていないのが現状です。本シンポジウムでは、高等教育の改革について、経済学，経営学，社会学などの分野で関わっている方々をお招きし、それぞれの立場の視点と教育工学との接点を探ることで、議論を深める予定です。

### ■登壇者

基調講演「教育工学の立場から高等教育を考える」 西之園晴夫（佛教大学）

1.経済学の立場から パネリスト1（交渉中）

2.経営学の立場から パネリスト2（交渉中）

3.社会学の立場から パネリスト3（交渉中）

皆様のご参加をお待ちしております。なお、登壇者等の詳細は今後ホームページに随時掲載していく予定です。一部変更されることもありますことをご了解下さい。

# 日本教育工学会 第24回全国大会のお知らせ (第二報)

日本教育工学会第24回全国大会を、下記のように上越教育大学において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募ください。

## 1. 開催期日・会場

期日：2008年10月11日（土）～13日（月）（3日間）

会場：上越教育大学 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

JR北陸本線・信越本線「直江津駅」よりバス20分、タクシーで約15分。JR信越本線「高田駅」よりバス15分、タクシーで約10分。直江津駅、高田駅より直行バスを運行する予定（片道200円）。

<http://www.juen.ac.jp/contents/access/guide/>

## 2. 大会日程

第1日 10月11日（土）	第2日 10月12日（日）	第3日 10月13日（月）
9:30～10:00 受付	9:00～ 9:30 受付	9:00～ 9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食 各種委員会	12:30～14:00 昼食	12:30～13:30 昼食
13:30～15:30 シンポジウム1	理事・評議員会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表2	14:00～14:30 全体会	13:30～16:00 課題研究発表
	14:30～17:15 シンポジウム2	
	17:15～18:00 移動	
	18:00～20:00 懇親会	

\*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が11日（全日）、12日（16時まで）に催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。

## 3. 各セッションについて

### (1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

#### シンポジウム1

##### シンポジウム1A ソーシャルネットワークキングの広がり と教育利用

コーディネータ（五十音順，以下同様）：金西計英（徳島大学），

室田真男（東京工業大学），森田裕介（早稲田大学）

最近、FacebookやMySpace等のSNS(Social Networking Service)に注目が集まっている。人と人とのつながりに基づく各種の活動や、活動に基づく産物が、インターネット上で多くの人を引きつけている。そこでは、コミュニケーションをベースに、集合知の実現が謳われている。ソーシャルネットワークキングの活動やサービスが、教育現場にも大きな影響を与えるであろうことが、予測される。しかし、ソーシャルネットワークキングは、注目を浴びる反面、必ずしも人々の間で、共通認識を得ているとは言えない。ブログや掲示板を提供するシステムだけがSNSではない。広く考えれば、連動した一連の現実社会の活動や、そこで生み出された生成物もソーシャルネットワークキングの一部を構成するものである。

そこで、本シンポジウムでは、ソーシャルネットワークキングに関して、これまでの流れやこれからの方向性、実践のあり方等、様々な観点から話題を提供していただき、教育への利用の可能性について議論することを目指す。

## シンポジウム1B 実践研究をどのようにデザインし、論文にまとめるか

コーディネータ：木原俊行（大阪教育大学）、清水康敬（メディア教育開発センター）

本シンポジウムは、昨年の大会に引き続き、大会企画委員会と編集委員会が連携して、企画・運営するものである。実践研究は日本教育工学会の重要な研究分野の1つであるが、そのデザインや知見の論文化には、教育実践を対象とする研究に固有の問題点がつきまとう。こうした見地から、前回大会では、実践研究のデザインや知見の論文化に関するシンポジウムを企画した。会場が満席となるほど多くの参加者を得て、このテーマが会員の関心に合致していることが再確認されたため、再度企画するものである。

本シンポジウムでは、前回大会同様、いくつかの実践研究事例を対象にして、本学会における実践研究のデザイン等について、具体的に、また詳細に検討したい。特に、昨年のシンポジウムで話題となった、実践研究において「理論」が果たすべき役割、実践者と研究者の共同のあり方、論文に求められる論理展開や内容、スタイル等について、討論を繰り広げる予定である。

## シンポジウム2 教師教育の再考－専門職としての教師の資質能力の規準とその育成方法－

コーディネータ：南部昌敏（上越教育大学）、東原義訓（信州大学）

教員免許状更新制、教職大学院などの新たな制度の中での教員の養成・研修、及び諸外国における取り組みの理念及び状況を関連させながら、我が国における教師教育の過去・現在・未来について論じ、教員養成から教員研修までの教師の生涯にわたっての成長を見通した専門職として身につけるべき教師の資質能力の規準とその育成方法について展望する。

### (2) 課題研究

以下のような6件のテーマの設定が予定されています。なお、課題研究は、発表希望者に事前にプロポーザルを提出していただき、大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご注意ください。

#### ■K-1 つながりメディアの教育利用－モバイル、ユビキタス、ロボットアバタ、SNS等－

コーディネータ：緒方広明（徳島大学）、中原 淳（東京大学）、高井尚一郎（内田洋行）

近年、場所や空間を超えて、人々を結ぶ様々な「つながりメディア」の教育利用が進んでいる。例えば、モバイル端末を用いて、親子や友達をつないで学習を支援するシステムやコミュニケーションロボットを用いて教室同士をつなぐといった、新しい「つながりメディア」を用いた教育支援の試みが数多くされてきている。

また、センサネットワークやRFIDタグなどを用いて学習者同士をつなぐ、ユビキタス学習環境についても、実用化の段階に進んできている。さらに、最近では、Web2.0の技術やSNSなどのSocial Computing技術をe-Learningに取り入れた「e-Learning2.0」という新しい概念も登場してきている。

本セッションでは、このような「つながりメディア」の教育利用に関係する研究発表を幅広く募集する。また、教育利用を前提とした新しいメディア技術の提案・開発に関する研究発表も歓迎する。

#### ■K-2 教育工学分野における新しい技術を活用したシステム開発の展開

コーディネータ：金西計英（徳島大学）、林 敏浩（香川大学）、  
室田真男（東京工業大学）

学習状態の適切な診断は、教育システム開発の大きな目標の一つである。最近、大量情報からの知識発見や脳科学等の分野で多くの成果が蓄積されている。そうした成果の教育工学分野への応用、学習者の把握への応用に注目が集まっている。例えば、e-Learningシステムがコンテンツ管理を主とするLMSから、ユーザの様々な情報を収集するe-Portfolioへと変化するにつれ、大量のユーザ情報を積極的に活用しようとする流れが生まれている。

本課題研究では、学習履歴のマイニング、メタオブジェクトを用いた学習履歴の共有、生体情報や感性情報を用いた学習履歴の分析等、学習状態を適切に診断するための新しい技術を活用した教

育システム開発の発表を募集する。研究者の間で知見を共有し、教育工学的なシステム開発研究のあり方やその評価手法について、議論が深まることを期待する。新しい技術を用いた教育システムを開発されている研究者の積極的な発表を期待する。

■K-3 ICTを活用した教育システムをどのように評価するのか

コーディネータ：久保田賢一（関西大学）、向後千春（早稲田大学）、  
栗山 健（学習研究社）、平嶋 宗（広島大学）

ICTの教育・学習への活用が急速に進んできた。それに伴い教育工学の文脈において、ICTを活用した効果的な教育・学習のあり方に関する研究が盛んに行われるようになった。これらの研究は、教育・学習という現象を対象としているが、ソフトやハードを開発した技術者とその技術を教室で活用する教師の立場では、「ICTを活用した教育システム」の評価には大きな違いがあることも明らかになった。教育工学の領域では、企業、技術者、教師、指導主事などさまざまな領域の人たちが、教育・学習に何らかの形で関わり、研究が行われている。しかし、領域の違う人たちの間のコミュニケーションが十分にとれているとはいえず、各領域での評価が他の領域のなかで十分に生かされていないのが現状である。技術の側と教育を実践する側にとって有益な評価とはどのようなものか。あるいはどのようなコミュニケーションを両者の間で持つことが必要なのか。教育実践、心理学、技術開発、ビジネスなどの観点から幅広い視点で議論し、「望ましい評価のあり方」についての理解を深めたい。

■K-4 初等中等教育におけるICT活用のデザイン・実践・評価

コーディネータ：高橋 純（富山大学）、森田裕介（早稲田大学）

「教育の情報化」に関する政策が進められ、ICTを活用したわかる授業の実現や学力向上が求められてきている。そこで、本課題研究では、テーマを本年の論文誌特集号とも連携させつつ、初等中等教育での学習指導におけるICT活用のデザインと実践、その評価等についての議論を行いたい。具体的には、わかる授業や学力向上を目指したICT活用の授業モデル、教員のICT活用指導力の向上を図る教員養成カリキュラムや現職教育プログラムの開発研究等を扱う。また、特に今日、初等中等教育における児童・生徒の学力向上を期したICT活用が政策的に推進されており、本学会としてこの分野の知見を整理することが求められていることから、初等中等教育における学力向上とICT活用に関わる研究についても発表されることを期待したい。

■K-5 情報教育研究・実践の方向性－教育課程の改訂を受けて－

コーディネータ：小泉カキ（尚美学園大学）、中橋 雄（武蔵大学）、  
野澤敏夫（東京書籍）

次期学習指導要領ではこれまで以上に情報教育の充実が唱えられており、小学校段階では問題解決的学習や探求活動を通して情報活用能力を身に付け、中学校段階ではこれを基礎に各教科等でICTを主体的に活用し、高校段階で進路によらず必要となる情報活用能力を身に付けるとされている。中でも、発達段階に応じた情報モラル教育は喫緊の課題と位置づけられ、社会の情報化に対応できる能力の育成がより具体的に示されている。本学会では、カリキュラム開発、学習評価、実践研究、学習環境デザイン、教材開発、教師教育など、様々なアプローチで情報教育の研究成果が報告されてきたが、これらをいま一度批判的に見直すことにより、新しい教育課程における情報教育のあり方について議論したい。本課題研究では調査データや実践結果の考察に基づき、これからの情報教育研究および情報教育実践の方向性について提案してもらいたい。

■K-6 新しい時代に対応する学力、それを育む授業・カリキュラム

コーディネータ：新地辰朗（宮崎大学）、田口真奈（京都大学）、  
野中陽一（横浜国立大学）

様々な教育課題の解決に向けて、新しい学習指導要領が示され、言語活動の重視や新しい時代に対応する学力、例えばPISA型読解力の育成が求められている。基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着及び知識・技能を活用する力の育成を目指す上で、引き続き、ICT活用等を含めた教育方

法の工夫や改善が求められる。社会の要請や児童・生徒の実態に応じた教育を実現するために、学校や教師には、効果的な授業やカリキュラムの在り方を構想し、さらに結果を見極める力量が求められている。

本課題研究では、学力、授業、カリキュラムなどの観点から、様々な方法によって教育活動を質的に向上させようとする、教師、学校そして教育委員会による意図的・計画的な取り組みに関わる実践報告、開発されたカリキュラム、研究成果等を取り上げる。

### (3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。発表申し込みの状況に応じて、統合・分割など、セッションの調整を行うことがあります。

なお、今大会も、一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が申込時に選択できます。ポスター発表者は、発表セッションの定められた時間帯に、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育 I (情報活用能力の育成等) (3) 情報教育 II (教科指導等) (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 認知モデルと知的学習支援システム (17) インターネットを利用した授業実践 (18) 教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21) 協調学習と協調作業 (22) ワークショップ (23) その他

### (4) International Session

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

#### ◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表13分 質疑応答5分

<ポスター発表>1セッション（在席責任時間は60分）

[International Session] 発表13分 質疑応答5分

## 4. 大会までのスケジュール

6月26日（木） 課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切

7月10日（木） 課題研究採否決定通知

7月24日（木） 課題研究・一般研究・International Sessionの参加費事前送金締切（郵便振替の場合）

7月31日（木） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）及び一般研究発表・International Session原稿（2ページ）の提出並びに参加費事前送金締切（クレジットカード支払いの場合）

なお、**17:00が最終締切時刻**となります。**この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません。また、原稿の差し替えは、提出締切時刻までは可能ですが、Web上でご自身でお願いいたします（電子メールによる差し替えは認められません）。**

8月28日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振替の場合、それ以降は送金しない）

9月4日（木） 発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード支払いの場合、それ以降は送金しない）

## 5. 大会の参加申し込み及び受付等について

大会に参加を希望される方は以下の手順に従って、申し込みをお願いします。

### (1) 事前送金の場合の参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は、以下の金額を、郵便振替の場合は8月28日（木）までに、クレジットカード支払いの場合は9月4日（木）までに、送金してください。それ以降に送金された場合は、当日参加の場合との差額を会場でお支払いいただきます。

なお、発表者は、郵便振替の場合は7月24日（木）までに、クレジットカード支払いの場合は7月31日（木）17:00までに、参加費の送金を完了してください。この期限までに参加費及び2008年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取り消しとなりますので、ご注意ください。

参加費	正・准・名誉会員	2,500円（当日は4,000円）
	学生会員	1,500円（当日は3,000円）
	非会員	3,000円（当日は4,000円）
懇親会費		5,000円（当日は6,000円）
弁当代		1,000円（1食分、当日受付は不可）
講演論文集代（CD-ROM付）		6,000円
講演論文集の送料（参加されない場合）		1,000円

8月28日（木）までの変更については、返金は致しませんが、送金なされた分を次年度の年会費に振り替えることができます。学会事務局（世田谷）[office-s@jset.gr.jp](mailto:office-s@jset.gr.jp)までご連絡ください。非会員の場合は入会をしていただくこととなります。この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として返金等ができないことをご確認ください。

大会参加費と論文集代を事前に送金したけれども、学会事務局に連絡することなく、大会に参加されなかった場合には、その旨を学会事務局（世田谷）[office-s@jset.gr.jp](mailto:office-s@jset.gr.jp)までご連絡ください。論文集をお送りします（送料は参加費で補填いたします）。ただし、その差額は返金できません。

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が変更されています。学生会員としての特典はありませんので、ご注意下さい。

### (2) 事前の送金と参加登録について（今年から変更になりました）

今年の全国大会から、会員と非会員で参加費等が異なります。JSETホームページ（<http://www.jset.gr.jp/>）に作成される予定の「大会参加」ページにアクセスしてください。その画面で、①正会員・准会員・名誉会員の場合、②学生会員の場合、③非会員の場合を選択できますので、それぞれの場合の説明に従って参加登録と送金手続きをお願いします。

また、送金方法として、3つの方法が準備されます。それらは、①クレジットカードによる支払い、②郵便振替、③当日会場で現金で支払いです。

なお、事前に送金をしていただける場合は、クレジットカード支払いと郵便振替のどちらかの方法をご利用下さい。

#### ①「クレジットカードによる支払い」の場合

- ・ 上記の「大会参加」ページで、「クレジットカードによる支払い」を選択してください。
- ・ ただし、その際には学会から発行してご連絡してありますID・パスワードが必要です。パスワードをお忘れになった場合は再発行いたしますので、学会事務局（世田谷）[office-s@jset.gr.jp](mailto:office-s@jset.gr.jp)に、電子メールでご連絡ください。
- ・ その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・ なお、学生割引は正規の学生会員に限ります。そのため、登録されている学生会員以外は割引価格では送金できないようになっています。

#### ②「郵便振替」の場合

- ・ 会員が郵便振替で送金される場合も、上記の「大会参加」ページで、「郵便振替」を選択してください。
- ・ その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。その際表示される金額と送金内容を学会からニューズレターと一緒に送りする郵便振替用紙に記入して、郵便局の窓口から送金してください。なお、必ず会員番号をお書きください。
- ・ 学会事務局では入金確認後に、会員データベースに入力します。郵便局の窓口から送金されてから1週間から10日かかりますので、送金日はそれを考慮してください。
- ・ 不足料金がある場合、電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが、全員



にはご連絡できないことも想定されますので、十分ご注意ください。

### ③「当日会場で現金で支払い」の場合の事前登録

- ・ 「当日会場で現金で支払い」の場合でも、参加登録を事前にさせていただきますと、会場での受付が非常に簡便になります。
- ・ この場合、上記「大会参加」ページで「当日会場で現金で支払い」を選択してください。
- ・ その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・ 登録内容が自動的にメールで送信されますので、それをプリントして当日会場受付にお出しください。当日参加票に記入する必要がなくなります。

### ④昼食（弁当）について

- ・ 会場周辺に食堂・レストランがありませんので、弁当（1,000円）の販売をいたします。
- ・ ただし、販売は、事前に送金される場合に限ります。上記の参加登録形態が「当日会場で現金で支払い」の場合には弁当を予約できません。
- ・ 弁当代の事前送金は、上記①あるいは②の登録の過程で申し込みできます。

### (3) 大会受付票等の送付について

事前送金された方々には、大会受付票等を9月中旬までにお送りします（予定）。

- ・ クレジットカード支払い、あるいは郵便振替で事前送金された参加者には、9月中旬までに、「大会受付票」「大会参加証(名札用)」「領収書」を電子メールの添付書類でお送りします。
- ・ 大会当日は、電子メールで送られた「大会受付票」等をプリントしてお持ち下さい。
- ・ ただし、電子メールアドレスが登録されていない会員には、大会受付票等が送られませんので、当日会場でその旨お申し出ください。

### (4) 当日の受付について

#### ①事前送金済みの場合

- ・ 大会受付の「事前送金済参加者」窓口で、電子メールでお送りした「大会受付票」をお渡し下さい。
- ・ 大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ プリントして持参していただいた「大会参加証(名札用)」を名札ケースにお入れ下さい。
- ・ 大会受付票をお忘れになる場合に備えて、できれば受付番号をメモしておいてください。
- ・ 大会受付票を紛失された方は、「事前送金参加受付票」に必要事項を記入の上、「事前送金済参加者」窓口にて、その旨、お申し出ください。
- ・ 送金金額に不足があり、大会当日に差額をお支払いいただく場合も、「事前送金済参加者」窓口でお受けします。

#### ②当日参加の場合

- ・ 当日参加者は、大会受付にて、「当日参加受付票」に必要事項を記入して、それを大会受付の「当日参加者」窓口にてお渡し下さい（名刺をお渡し下さる場合は、連絡先住所等の記入を省略することができます）。
- ・ ただし、学会ホームページから参加登録を行った会員は、自動送信されたメールをプリントしてお持ちください。会場で「当日参加受付票」に記入していただく必要がなくなります。
- ・ お支払いいただいた金額に応じて、大会プログラム、大会論文集等をお渡しします。
- ・ 名札ケースに名刺を入れるか、お名前をカードに書いて入れてください。
- ・ 懇親会費を支払われた場合は、名札にマークをはらせていただきます。

### (5) その他

- ・ 学生割引は本学会の正規の学生会員に限ります。そのため、学生会員以外が割引価格の金額を送金された場合は、差額を申し受けます。
- ・ 名札ケースは、最終日のお帰りの際に、ご返却下さい。

## 6. 大会への発表申し込み等

### (1) 発表者の資格

- ・ [発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。
- ・ 発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになっております。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSETホームページ大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。なお、大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

### (2) 発表申し込み件数の制限

- ・ 会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。
- ・ 連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・ 類似の内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・ 課題研究は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に一般研究にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

### (3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

#### 1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・ 発表プロポーザルを、6月26日（木）17:00までに提出してください。
- ・ ページ数はA4版2～4ページとします。フォーマットは特に定めておりません。
- ・ プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、JSETホームページの大会関係部分でお伝えします。
- ・ 課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・ 課題研究発表の採否は、7月10日（木）までに申し込み者に連絡します。

#### 2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・ A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。JSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ JSETホームページ大会関係部分から、7月31日（木）17:00までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。
- ・ 発表時間の希望には応じられません。

### (4) 一般研究及びInternational Sessionの発表申し込み方法

- ・ 7月31日（木）17:00までに、JSETホームページ大会関係部分から原稿ファイルを提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・ 一般研究とInternational Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・ 原稿用紙は送付しません。JSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・ 発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承ください。

#### (5) CD-ROMの作成について

前回大会の論文集から、冊子体のものに加えて、CD-ROM (PDFファイル) を作成することになりましたので、ご了承下さい。

また、大会原稿の著作権を学会に譲渡いただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

#### (6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、学会事務局 (五反田) office-g@jset.gr.jpまでご連絡ください。その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません (学会から提供する発表リストから削除します)。なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意ください。

### 7. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、PCを投影できる設備 (プロジェクタ) が利用可能です。口頭発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。OHPあるいはOHCの利用を希望なされる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。また、PCから音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意ください。

ポスター発表の会場では、幅1メートル・高さ2メートル程度のポスター掲示用パネルを用意します。また、パネル前に長机 (高さ70センチメートル程度) を用意しますので、配布資料やデモンストレーション用のパソコン等を置くことが可能です。ポスター発表会場にもインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。また、電源は使用できません。

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学 石川真研究室気付

日本教育工学会第24回全国大会 実行委員会事務局 宛

電子メールでの問い合わせ先: [jset-conf@juen.ac.jp](mailto:jset-conf@juen.ac.jp)

### 8. 企業の展示について

大会期間中の第1日目及び第2日目に、企業による製品等の展示も行います。出展、ならびに大会プログラム等における広告を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ ([tenji2008@jset.gr.jp](mailto:tenji2008@jset.gr.jp)) へお問い合わせください。

なお、出展・広告申し込みの第1次締め切りは、6月21日 (土) です。

### 9. 宿泊案内について

下記のWebページにて宿泊のご案内をしておりますので、早めに手続きをお願いいたします (<http://www.juen.ac.jp/gakkai/jset2008/>) 。

### 10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用電子メールアドレス: [taikai2008@jset.gr.jp](mailto:taikai2008@jset.gr.jp)

## 大会企画委員会

委員長：木原俊行（大阪教育大学）

副委員長（五十音順，以下同様）：東原義訓（信州大学） 室田真男（東京工業大学）

幹事：金西計英（徳島大学） 森田裕介（早稲田大学）

委員：

石川 真（上越教育大学）

緒方広明（徳島大学）

久保田賢一（関西大学）

栗山 健（学習研究社）

小泉力一（尚美学園大学）

向後千春（早稲田大学）

新地辰朗（宮崎大学）

高井尚一郎（内田洋行）

高橋 純（富山大学）

田口真奈（京都大学）

中橋 雄（武蔵大学）

中原 淳（東京大学）

南部昌敏（上越教育大学）

野澤敏夫（東京書籍）

野中陽一（横浜国立大学）

林 敏浩（香川大学）

平嶋 宗（広島大学）

担当副会長：

野嶋栄一郎（早稲田大学）

アドバイザー：

赤堀侃司（東京工業大学）

清水康敬（メディア教育開発センター）

## 教育工学関連の最近の国際学会の報告（2008年3月）

### ■国際学会 WBE2008（インスブルック，欧州，オーストリア）

国際学会第7回International Conference of Web-based Education(WBE2008)がインスブルック国際会議場で3月17日～19日まで開催され，欧州を中心に28カ国から230本の論文投稿があり，査読を通過した70本のフルペーパーが3日間で，25分ずつ発表されました．Key Note Speechは米国Maryland University CollegeのDr. S. C. Aldridge学長が”Bringing the World to Higher Education: A New Paradigm for Global Learning”という演題で講演され，Invited Speechは滋賀大学の宮田教授が”Mobile & Collaborative Learning Development by a Concept of Mobile-as-participation Platform”という演題で講演しました．論文コンペでは18名の国際審査委員の審査の結果，ドイツ，中国（香港），米国，スロヴェニア，日本，ジャマイカの6本の論文が決勝審査に残り，最終的にBest Paper Awardを徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部の光原弘幸講師，中谷俊介院生，金西計英准教授，矢野米雄教授の共著論文「e-Notebook Tool for Effective Knowledge Construction from Web: Encouragement Multi-perspective Thinking and Prevention of Copy and Paste」が受賞しました．論文は，International Journal of Advanced Technology for Learning(ATL)にSelected Papersとして掲載されることとなりました．

<http://www.iasted.org/conferences/pastinfo-610.html>



## 研究会の開催

研究会  
2008

## テーマ

## 質的研究と教育学／一般

- 日 時：2008年 5月17日(土)
  - 会 場：岩手大学教育学部(盛岡市上田3-18-33)
  - 担 当：塚野 弘明(岩手大学) [tsukano@iwate-u.ac.jp](mailto:tsukano@iwate-u.ac.jp)
- TEL: 019-621-6642

## プログラム

発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度，質疑5分程度)

会場：A会場(2号館279教室) B会場(2号館378教室) C会場(1号館203教室)

10:00-10:10 開会挨拶・諸連絡

10:10-11:50 午前の部

- A1) 子ども文化理解のためのメディア・ディスコース・アナリシスに関する研究  
小柳和喜雄(奈良教育大学)
- A2) 大学院研究プロジェクトにおける正統的周辺参加  
ーグラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)の手法を用いてー  
盛岡浩・岸磨貴子・鍛冶大祐・今野貴之・山本良太(関西大学大学院)，久保田賢一(関西大学)
- A3) 教育情報システムの質的評価に関する考察  
菅原真悟(法政大学/総合研究大学院大学)，新井紀子(国立情報学研究所)，  
坂本旬(法政大学)
- A4) 初年次教育のエスノグラフィ  
森朋子(島根大学)

- B1) 児童生徒のケータイ所持と学校の指導の実態に関する教員向け調査  
杉本圭優(富山短期大学)，堀田龍也(メディア教育開発センター)，  
石原一彦(岐阜聖徳学園大学)，前田賢一・藤原理香・末吉恵美(NTTドコモ)
- B2) 携帯メールコミュニケーションにおける感情方略に相手との社会心理的距離の与える影響の分析  
佐藤弘毅(名古屋大学)，加藤由樹(東京福祉大学)，加藤尚吾(早稲田大学)
- B3) 携帯型ゲーム機を活用した小・中学校の個別学習の試み  
本多博(長崎県教育センター)，小川雅弘(浜松市立瑞穂小学校)，  
田中康之(諫早市立飯盛中学校)，荻原恵理・正木寛子・坪倉文恵(ベネッセコーポレーション)，  
堀田龍也(メディア教育開発センター)
- B4) 短期大学における安定運用を目的とした学習支援環境の事例研究  
中島千恵子(星美学園短期大学)

- C1) 黒板・白板・PowerPointの三種の提示メディアの模擬授業による比較研究  
柳沢昌義・岸亜希子(東洋英和女学院大学)
- C2) 小学生に情報活用スキルを習得させるためのガイドブックの運用と効果  
塩谷京子(静岡市立森下小学校)，堀田龍也(メディア教育開発センター)
- C3) 情報活用の実践力を活用した教科学習の授業設計と実践  
笹原克彦(富山市立山室中部小学校)，高橋純(富山大学)，  
堀田龍也(メディア教育開発センター)
- C4) ICT活用授業による学力向上に関する総合的分析評価  
清水康敬(メディア教育開発センター)，山本朋弘(熊本県教育センター)，  
堀田龍也(メディア教育開発センター)，小泉力一(尚美学園大学)，  
横山隆光(羽島市立羽島中学校)

12:50-14:30 午後の部第一部

- A5) 大学教育実践ステークホルダーインタビュー分析 ー米国の大学院プログラムを題材にしてー  
根本淳子・鈴木克明(熊本大学大学院)
- A6) 学校ウェブサイトの利用者意識調査  
豊福晋平(国際大学)
- A7) 国際交流学習における生徒の意識の変容プロセスに関する考察  
岸磨貴子(関西大学大学院)，久保田賢一(関西大学)
- A8) 教師に着目した国際交流学習の授業研究  
今野貴之(関西大学大学院)

- 
- B5) CMSによる入学前課題実施報告  
渡邊景子・高山文雄（いわき明星大学）
- B6) パソコンと携帯向きのWeb型試験システムを用いた専門科目の到達度評価  
三輪譲二（岩手大学）
- B7) 文章理解を促すための音声付加コンテンツの構成に関する研究  
永田奈央美・岡本敏雄（電気通信大学大学院）
- B8) e-Learningの質を高める視点に関する検討  
清水康敬（メディア教育開発センター）

- 
- C5) 公立小中学校教員の実物投影機等の利用に関する調査  
石塚丈晴（静岡大学／メディア教育開発センター），堀田龍也（メディア教育開発センター），  
野中陽一（横浜国立大学／メディア教育開発センター），笹田森・山田智之（内田洋行）
- C6) 教科書準拠の提示用コンテンツの開発と授業実践  
高橋純（富山大学），堀田龍也（メディア教育開発センター），  
青木栄太・森下誠太・山田智之（内田洋行），吉田茂喜・江山永（インフォザイン），  
井口紗希子・吉川亜依（富山大学），宮本直子（浜松市立佐藤小学校）
- C7) 民族誌映像教材  
成田康修（東京電力／総合研究大学院大学）
- C8) 児童生徒の自尊感情向上及び教師－児童生徒間の信頼関係向上に資する教師の指導技術の検討  
藤本満利江（埼玉大学大学院），野村泰朗（埼玉大学）

#### 14:45-16:25 午後の部第二部

- A9) 導入教育における授業評価アンケートの自由記述の分析  
村上正行・梶川祐司（京都外国語大学）
- A10) コーチング指導における有効な質問のパターン  
玉村福太郎（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
- A11) 「外国語の学び方」の指導に結びつくICTを活用した問題解決的なコミュニケーション活動に関する実践的研究  
永易淳史（富士見市立東中学校），野村泰朗（埼玉大学）
- A12) 大規模クラスにおけるフィードバック作業の負荷を軽減する試み 2  
波多野和彦（メディア教育開発センター），三尾忠男（早稲田大学）

- 
- B9) 学習過程における「自分」の位置づけ－中学校の通知表・評価観点の分析を通じて－  
細川和仁（秋田大学），西森章子（大阪府立大学），後藤真一（後藤教育研究所）
- B10) 教授活動ゲームによる情報科教育用授業設計訓練環境の構築  
松田稔樹（東京工業大学大学院），石井奈津子（芝浦工業大学／東京工業大学），  
滝沢ほだか（東京工業大学）
- B11) 教授活動ゲームの活用による授業改善の試み（3）  
小杉直美（北翔大学），松田稔樹（東京工業大学大学院）
- B12) 聞き手反応の教授による学習者の日本語不安の変化  
歌代崇史（東京工業大学大学院），柳沢昌義（東洋英和女学院大学），赤堀侃司（東京工業大学）

- 
- C9) DEAを用いた学習効率の評価方法に関する検討  
成瀬喜則（富山商船高等専門学校），宮地功（岡山理科大学）
- C10) 関西光科学研究所におけるサイエンス・キャンプの実践  
星屋泰二・西村明彦・黒坂啓子・木村豊秋・佐藤将臣（日本原子力研究開発機構）
- C11) きつづ光科学館ふおとんにおける科学技術理解増進活動の実践  
星屋泰二（日本原子力研究開発機構），佐々木和也（きつづ光科学館ふおとん），  
西村昭彦（日本原子力研究開発機構），西川雅弘（きつづ光科学館ふおとん）
- C12) 広域定点観測プロジェクトの成果と課題  
渡部昌邦（放送大学大学院），渡邊景子（いわき明星大学），篠田伸夫（福島大学），  
永野和男（聖心女子大学）

---

●参加費用：研究会報告集の年間予約購読代金を支払済みの本学会会員は無料で参加できます。その他の参加者は本学会会員を問わず1,000円（当日受付にてお支払いください）となります。

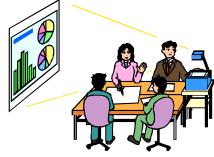
●交通案内：【盛岡駅から】

- バス利用（盛岡駅前バスターミナル11番のりば），「岩手大学前」下車  
岩手県交通バス：上田線（松園バスターミナル行き），桜台団地線（桜台団地行き）
- タクシー利用，盛岡駅から約2km 約10分

※詳細は <http://www.iwate-u.ac.jp/campusannai/ueda1.shtml> をご覧ください。

---

## 研究会の発表募集



テーマ 言語力を育む授業づくり／一般

- 日時：2008年 7月 5日(土)
- 会場：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター
- 開催担当：加藤 隆弘(金沢大学)
- 申込締切：2008年5月12日(月) ●原稿提出：2008年6月5日(木)

●募集内容： 文部科学省は3月28日に新しい学習指導要領を告示しました。今回の改訂では、「知識技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成等のバランスを重視」する中で、「あらゆる学習の基盤となる言語に関する能力について、国語のみならず、各教科等においてその育成を重視」する方向性が打ち出されました。本研究では、様々な学習の場で言語力育成を目指した授業作りに取り組んでおられる方々の発表を募り、議論と情報交換を行いたいと考えております。

また、上記のテーマにはこだわらない教育工学一般における発表も幅広く募集しております。

●申込方法： 研究会Webページよりお申し込みください。

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

●申込期限：2008年 5月12日(月)

締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出期限：2008年6月5日(木)

原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚、期限を過ぎた場合はキャンセルしていただく場合があります。

### 今後の研究会の開催予定

開催日	募集テーマ(予定を含む)	開催場所
2008年 9月 6日	学校図書館と情報教育／一般	玉川大学
2008年 12月 20日	教育システム・教材開発のためのICT活用／一般	いわき明星大学
2009年 3月 7日	ICTの教育活用と授業設計／一般	椋山女学園大学
2009年 5月 16日	ICTを活用したFD／一般	徳島大学
2009年 7月 4日	教科教育学と教育工学の交差点／一般	宮崎大学

●発表申込み締切は概ね開催日の2ヶ月前となります。

●研究会に関するご意見・ご希望、研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会幹事までお寄せ下さい。

E-mail: [study-group-core@jset.gr.jp](mailto:study-group-core@jset.gr.jp)

### 年間予約購読のお勧め



●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。年間5冊、合計500ページ前後で、各研究会平均20件程度(平成18年度実績)の研究発表が掲載されます。詳しくは、学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル

TEL/FAX: 03-5740-9505 E-mail: [office@jset.gr.jp](mailto:office@jset.gr.jp)

---

## 研究会の開催報告

---

●日 時：2008年3月1日

●会 場：名古屋大学

●発表件数：44件

●参加者数：130名

2008年3月1日、名古屋大学において「日本語教育と教育工学／一般」というテーマで研究会を開催いたしました。44件もの発表が行われ、ICTを活用した日本語教育の支援システム、教材、e-ラーニングの開発や実践などテーマに直結した研究に加え、英語などの第二言語習得とその支援システム、国際交流や留学生支援など、テーマと関連した研究が報告されました。また、ICTを活用した授業や遠隔教育の実践など、日本語教育への応用が期待されるような教育工学一般の研究も数多く発表されました。当日は130名もの参加があり、そのうち非会員が48名と日本語教育関係者も多く参加され、多様で活発な議論がなされました。その中では、日本語教育と教育工学の連携を求める声も聞かれ、本研究会が両分野の相互交流の一助となったのではないかと自負しております。年度末のお忙しいところご発表、ご参加いただいた多くの方に、深くお礼申し上げます。



(担当：名古屋大学 佐藤弘毅)

---



## 2007 年度 冬の合宿研究会報告

### 「授業評価・授業改善におけるテキストマイニングの有効性を探る！」

「授業評価・授業改善におけるテキストマイニングの有効性を探る！」と題した冬の合宿研究会が、2008年2月22日（金）と23日（土）の2日間にわたり、兵庫教育大学神戸サテライトにて開催されました。80名の定員に対して多数の申し込みがあり、何人もの方にお断りをしなければならない状況でした。最終的な参加人数は100名で、うち半数が学会員でした。

研究会は22日14時に開会し、美馬のゆり企画委員会委員長の開会挨拶のあと、後のワークショップで使用する5種類のテキストマイニング分析ツール（KH coder[大阪大学 樋口耕一]，Text Mining Studio[数理システム]，TRUSTIA[ジャストシステム]，Edu-mining ツール[兵庫教育大学 永田亮・掛川淳一]，Text Mining for Clementine[SPSS]）のアピール合戦が行われ、参加したいワークショップの希望調査が行われました。引き続き、大阪大学 樋口耕一氏により「テキストマイニングとは－社会調査法の視点から－」と題された講演があり、テキストマイニングの基礎的事項から応用までわかりやすく講義していただきました。16時からの「実際にデータを分析してみよう」というワークショップでは、希望調査に基づき5つのツールにわかれ、参加者が実際に分析を体験しました。各ツール担当の講師が手続等について解説したのち、参加者は事前に用意された共通データの分析をしました。部屋の広さやパソコンの台数が十分ではありませんでしたが、講師たちの尽力もあり、参加者は熱心に取り組んでおられました。ワークショップ終了後、懇親をかねた情報交換会が最上階の居酒屋で開催されました。実際には合宿という形式がとられなかったこの冬の研究会でしたが、この情報交換会で深夜まで交流を深めることができました。



翌日朝9時半から、鳴門教育大学 村川雅弘氏の司会により、ワークショップの成果報告が行われました。各ワークショップの代表参加者が、ワークショップでの過程や結果を報告しあい、テキストマイニングの可能性や難しさについての理解を共有しました。その後、滋賀大学 宮田仁氏による「テキストマイニングの活用事例と読み解き方」と題した講演が行われました。携帯電話により送られたコメントがテキストマイニングと連動することにより、リアルタイムで可視化されるシステムを使った大学授業など、応用的な活用事例が報告されました。最後に、佛教大学 西之園晴夫氏が「授業評価・授業改善におけるテキストマイニングの活用可能性－教育技術の視点から－」と題したビデオ講演を行いました。大学授業料の高騰の現状とそれを抑制する必要性が語られ、そのために今後教育工学が研究すべき授業と、そこからテキストマイニングへの期待が語られました。12時半に全てのプログラムが終了し、鈴木克明企画委員会副委員長の挨拶により閉会しました。



多数の講師の方にご協力いただき、中身の濃い冬の合宿研究会となりました。年度末のお忙しい時期にご参加いただいた皆様にはご協力に深く感謝申し上げます。

担当：兵庫教育大学 永田智子

## 2007年度 産学協同セミナー報告

平成20年2月29日（金）、「産学協同セミナー：教育工学における産学協同プロジェクトの在り方」が、（株）内田洋行 東京ショールームで開催され、約50名が参加した。このセミナーは、産学協同プロジェクトに興味をもっている会員に、最初の一歩を踏み出すためのヒントときっかけを与えることを目指し、教育工学における産学協同プロジェクトの事例を紹介し、それに基づいて議論するものであった。

まず始めに、メディア教育開発センターの中川一史氏に、「産学協同プロジェクト入門」というタイトルの小講演をしていただいた。これにより、産学協同プロジェクトを巡る問題群が参加者全員に共有された。



続く事例紹介では、まず、パイオニアソリューションズの太田泉氏より、現場教師を巻き込んだ電子黒板開発事例の紹介があった。この報告では、産学協同プロジェクトが有効な製品を生みだしていった過程が詳しく述べられた。続いて、内田洋行の久保昇氏からは、内田洋行とメディア教育開発センターとの包括協定による産学協同事例が紹介された。久保氏の発表では、産学協同の歴史についても解説があった。最後に、東京大学の山内祐平氏とベネッセコーポレーションの和気竜也氏から、東京大学とベネッセの産学協同事例について、それぞれの立場から紹介いただいた。

事例紹介の後、講演者らによる座談会をおこなった。座談会は、フロア参加者の方々に記入していた

コメントをもとに進行した。ここでは、普段はなかなか聞けないような、突っ込んだ質疑応答がなされ、非常に刺激的であった。例えば、企業が協同研究のパートナーを選択した基準が議論され、企業の側から、研究内容に加えて、「どれだけ現場の先生方を組織して動かせるか」が重要であったとの回答が得られた。また、「どのような企画書が企業に受け入れられるのか」といった現実的な疑問には、「その時点でその企業が、内部的に、どのようなことを問題として認識しているのかを上手く捉えて、企画書に盛り込むことが必要である」との示唆を得ることができた。一方で、大学側の研究者からは、ノウハウにたよることの危険性も指摘された。議論は、研究委託金の額にも及んだ。「相場はいったい幾らなのか」という疑問が、大学関係者、企業関係者双方から呈されたのが印象的であった。参加者らの持っている情報を集めた結果、現状としては、0円から相当な高額まで、大きな幅があることがわかった。この議論では、大きな金額に驚くというよりも、むしろ、小さなところからでも産学協同プロジェクトは始めることができるという可能性を確認することができた。さらに外資系企業との産学協同プロジェクトの問題について、フロア参加者から貴重な情報提供があった。ニューズレターでどこまで開示して良いか判断がつかないため情報の詳細は記さないが、この議論をとおして、日本の教育工学が国際的な産学協同プロジェクトの時代に入ったことを実感させられた。セミナー終了後、有志による懇談会が開催され、さらに関連な情報交換がなされた。

講演者の方々には、セミナーの主旨を理解していただき、綺麗事だけではない、産学協同の現実を開示していただけた。そうした上で、産学協同プロジェクトの可能性と面白さを再確認することができた。非常に有意義なセミナーであった。

末尾ながら、講演者の皆様、議論を盛り上げてくださったフロアの皆様、そして、完成直後の素晴らしいセミナー会場を提供していただいた上に、当日の運営にもご協力くださいました（株）内田洋行様に感謝いたします。



文責：茨城大学 鈴木栄幸

## 第 12 期第 7 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 3 月 22 日（土）14:40～16:30

場 所：キャンパスイノベーションセンター 8 階 806 号室

出 席：赤堀侃司会長，永野和男副会長，野嶋栄一郎副会長，矢野米雄副会長，赤倉貴子，伊藤紘二，植野真臣，大久保昇，大谷 尚，小柳和喜雄，木原俊行，向後千春，澤本和子，鈴木克明，中山 実，東原義訓，堀田龍也，山内祐平，室田真男

1. 第 12 期第 6 回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について

- (1)新入会員： 9 名(正会員:4 名，学生会員:5 名)
- (2)退会会員： 27 名(正会員:15 名，学生会員:6 名，准会員:6 名)
- (3)会員種別変更： 1 名(正会員へ 1 名)

3. 各種委員会報告について

(1)編集委員会

矢野副編集長から和文誌，英文誌の編集進捗状況，特集号の投稿状況及び査読進捗状況について報告があった。

(2)研究会委員会

堀田委員長から資料に基づいて，研究会実施状況の報告，次年度の開催計画について説明があった。3 月 1 日に開催された研究会委員会での検討事項が報告された。

(3)企画委員会

鈴木理事から，開催報告と予定について説明があった。シンポジウム等の詳細については，次号のニューズレターで広報する予定であることが報告された。

(4)大会企画委員会

木原委員長から資料に基づいて，参加費の改訂，企業展示の日程，新潟県への個人情報提供について，審議した上でそれぞれ承認した。

(5)選挙管理委員会

澤本委員長から，室田理事を委員会委員として指名することを承認した。

(6)国際交流委員会

野嶋副会長から，韓国，中国との交流を実施することが説明された。

(7)事務・総括

会計報告を 4 月 10 日までに世田谷事務局へ提出することを依頼した。

(8)広報委員会

赤倉理事から，資料に基づいて JSET ニューズレター 157 および 158 の台割案が示され，ページ数の構成について検討した。

4. その他

(1)学習指導要領改訂についてのパブリックコメントについて

赤堀会長から JSET のコメントを文科省へ提出したことが報告された。

(2)研究成果報告について

赤堀会長から科研成果の 1 部を本年度シンポジウムで，学会の重点領域については来年度のシンポジウムで報告することが報告された。

(3)共催名義使用の承諾ならびに実行委員会委員の推薦について

日本工学教育協会平成 20 年度工学教育連合講演会について共催を承認した。実行委員については，矢野副会長に選任を依頼した。

(4)後援名義使用の承諾について

2008PC カンファレンス(コンピュータ利用教育協議会(CIEC))について承諾した。

(5)本学会への広報を確認した。

(6)今後の理事会

第 12 期第 8 回理事会 2008 年 5 月 10 日(土)14:40～16:20

第 12 期第 9 回理事・評議員会(合同)2008 年 6 月 21 日(土)

以上

■正会員 4名

大倉 典子 (芝浦工業大学)  
祥雲 暁代  
塚本 民雄 (大阪府立大学)  
古田 雅俊 (聖マリア学院大学)

■学生会員 5名

石川 久吉 (熊本大学大学院)  
左古 卓也  
(The University of Hong Kong)  
佐々木 尚 (慶應義塾大学)  
曾山 夏菜 (熊本大学大学院)  
玉村 福太郎 (早稲田大学大学院)

学会日誌

2008年

5月10日(土) 理事会  
5月17日(土) 研究会「質的研究と教育工学」(岩手大学)  
6月21日(土) 第24回通常総会, シンポジウム, 理事・評議員会 (東京工業大学)  
7月 5日(土) 研究会「言語力を育む授業づくり」(金沢大学)  
7月12日(土) 理事会  
9月 6日(土) 研究会「学校図書館と情報教育」(玉川大学)  
9月20日(土) 理事会  
10月11日(土)～13日(月) 第24回全国大会 (上越教育大学), 理事・評議員会  
11月29日(土) 理事会  
12月20日(土) 研究会「教育システム・教材開発のためのICT活用」(いわき明星大学)

2009年

1月24日(土) 理事会  
3月 7日(土) 研究会「ICTの教育活用と授業設計」(椛山女学園大学)  
3月21日(土) 理事会  
5月16日(土) 研究会「ICTを活用したFD」(徳島大学)  
7月 4日(土) 研究会「教科教育学と教育工学の交差点」(宮崎大学)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ . . . . . 編集委員会 (editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ . . . . . 研究会事務局 (jset-branch@nime.ac.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ . . . . . 大会企画委員会 (taikai2008@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ . . . . . 広報委員会 (kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他のお問い合わせ . . . . . 学会事務局 (office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 広報委員長:赤倉貴子, 広報副委員長:宮田 仁,  
委員:矢野米雄, 伊藤剛和, 香山瑞恵, 神月紀輔, 皆川 武, 三輪吉和 E-mail:kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.157

2008年05月07日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

http://www.jset.gr.jp/

郵便振替 00180-2-539055